

第3回

南相馬市まち・ひと・しごと

創生有識者会議

会 議 録

南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議

第3回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

会議の名称	第3回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議			
開催日時	平成27年8月29日(土) 13時30分開会・15時30分閉会			
開催場所	南相馬市役所 本庁舎4階 議員控室			
委員長	高木 亨(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授)			
委 員	移住者代表 副委員長		武藤 琴美	×
	原町青年会議所	理事長	杉内 亜希	×
	原町青年会議所	総務委員会委員長	和田 智行	×
	小高商工会	青年部長	片岡 太成	×
	鹿島商工会	青年部長	若松 真哉	×
	原町商工会議所	青年部副会長	松本 卓真	×
	原町地区連合会	議長	諸橋 誠敏	
	A.C.ハマーズ 2001	副会長	原田 正己	×
	A.C.ハマーズ 2001		仲野内 勇作	
	ひよこサークル		福崎 歩未	
	原町第一小学校PTA	会長	谷田部 真敏	
	あぶくま信用金庫本店営業部	融資係主任	遠藤 敬志	
	移住者代表		鈴木 聡子	
南相馬みらい創造塾	卒塾生	佐藤 まゆみ	×	
事 務 局	企画課	部次長兼課長	植松 宏行	/
		課長補佐 兼企画係長	涌井 秀之	
		企画係主査	藤原 道夫	

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1)(仮称) 南相馬市地域創生総合戦略の施策の検討について

企画課主査

資料に基づき説明。併せて、欠席の武藤副委員長より意見が資料として提出されたため、代読。

委員長

武藤副委員長からは、ワーキンググループの協議結果について、行政が対応できるかということ以前に、そもそも有識者会議で出した意見のような取り組みが必要か必要でないかという視点で協議をしてほしかったという意見のようである。

今の説明を踏まえ、質問・意見等があればお願いしたい。

委員

市の教育状況について、誤解があるように感じている。昨年度の学力テストの結果は、全国平均を上回っている。スポーツの分野でも全国でトップクラスに進出する競技が出てきており、南相馬市の子どもは学力が低いとよく言われるが、実はそんなことはない。そういった情報の発信ができれば、学力が低いから戻らないという人を戻せると思う。

最終的には子どものやる気次第であることから、子どもの好奇心ややる気を刺激することが必要。実際にそういった取り組みも見られ、自分が子どもの頃よりも、今の子どもはかなりチャンスに恵まれていると思う。

委員長

学力については大学でもよく話題に上る。実際に教育関係のデータ、特に学力に関してはほとんど開示されない。震災前後で比較できればよいが、そうはなっていないために下がったのではないかという噂が先行して伝わってしまう。そういったことから地元から実態を発信していくことは必要だと思う。

委員

イメージでは学力があまり高くないと思っていたため、今の話は意外だったし、伝わらないのはもったいないと思う。

私は相双地方振興局の農地再生協議会のお手伝いをしており、午前中はそ

の中の6次化のイベントでセデッテかしまに行っていた。そこで相馬農業高校の生徒と一緒に活動をしたが、勉強だけではない部分の活動で学生と一緒に取り組んでいることなどを外に向けて発信すると、イメージアップには有効だと思う。

今の南相馬市には、そういった部分の発信力が不足していると感じる。

委員長

発信力については前回も話題となった。実例として震災直後桜井市長がYouTubeで世界に向けて発信したことが南相馬市に多くの支援が向けられたことから、発信の重要性が伺える。

委員

農業は基本的に個人経営が多く、高齢者が多いことから規模縮小、あるいは再開できない人も多いが、そのすべてに対し市が支援することは困難。金銭的な補助よりもそれらの人のモチベーションが上がるような取組みができるといいと思う。ベテランの農家の方は、体力がなくても知識や技術を持っている。そういったものを農業法人の場などで伝えることで、農業高校生の受け皿づくりなどにもつながっていくのではないかと。

委員

転出者向けのアンケートの結果を見ると、6割の人ができれば住み続けたかったと言いながら、その半分近くの人には戻りたくないと言っている。その理由は公共交通や買い物、子育ての環境によるもので、そういった人たちを戻すのは容易ではない。

また、安定した就労先の確保も大きな要因であるが、新たな企業の誘致や賃金の上昇も難しいため、まずは働きやすさを向上させるために、行政として市内の企業に対しワークライフバランスの大切さを理解させるための研修会を開催するなどといったことも有効なのではないかと思う。

委員

先ほど農家への支援の話があったが、確かに金銭的なサポートよりも、販路開拓や売り方、PRの方法などの支援をしていったほうが農家のやる気は促進できるのではないかと思う。

教育面では、南相馬市で高校へ進学するときに、他の地区と比べ選択肢が少ない。選択肢を増やすためにも子どもの数は増やさなければいけないし、そのためには外に向けたPRが重要。

私はみらい創造塾にも参加しているが、その中では南相馬市のよいところを再発見し、YouTubeで発信することを検討している。それは市外の人に対するPRであると同時に、市内の人にも改めて市のよいところを見直してもらうという目的もある。そういった小さいことの積み重ねをしていけば、ま

た南相馬市が盛り上がるのではないかと考えている。

委員

私の親戚が震災時関東地方へ避難した際、当時中学校に入学する時期だったのだが、都会のほうが授業の進度が速く、内容も濃いために同級生からきつい言葉を投げかけられたり、その後の高校入試でも辛い思いをしていた。こうした経験から、自分たちの地元の教育レベルは低いと思ってしまった。そのことが足かせとなって帰還を躊躇っている人も多いと聞く。本当に学力が上がっているのならば、そういう情報は積極的に発信すべきだと思う。

先日、とある商科大学の先生と話す機会があった。その際小高商業高校でつくっている「だいこんかりんとう」をお土産として持って行ったところ、南相馬市については勉強したつもりだったが、だいこんかりんとうのことは知らなかったと言われた。おいしいし、もっと大々的にPRしたほうがいいとも言われた。

風評被害の影響もあり、放射線量を測っても農産物がなかなか売れない状況にある。どのように放射線量を測って、その結果どの程度放射線の影響を受けているかということ、大人だけでなく子どもに対しても開示して、子どもたちが安心して南相馬市の農産物を食べているのを見れば、全国の人たちも南相馬市のものを買ってくれると思う。

相馬農業高校の女子高生が自分のつくったものを YouTube などでもPRすれば、外に向けて前向きなイメージを発信できると思う。

南相馬チャンネルが自宅のテレビで映らないが、改善されないか(上渋佐在住)。

ひばりFMは、親世代で聴いている人が結構多い。災害FMではあるが、災害情報だけでなく、イベント情報なども流してもらおうと聴いている人は喜ぶと思う。

高校生対象のアンケート結果を見ると、進学先として県外の大学等を選択する人が多く、就職先もその周辺で見つける人が多いと思う。大学等で勉強したことを生かせる仕事場が都会にしかないこともその要因。戻りたくても戻れない人も多い。このままではいくら子どもが生まれても、若い世代は出て行きさみしいまちになってしまう。何とか四年制大学の一学部でも本市に持ってこられないものか。市だけでは難しいとは思いますが、地元の子どもたちが地元の大学に進み、地元で働くというのが一番だと思う。

委員

昨年市の会議に参加したときに、大学誘致の話はさせていただいた。10年、20年かかってもやる価値はあると思う。つくるなら私立ではなく国公立がいい。

私も原町高校から東京の方に進学し、3年ほど東京で働いた。戻ってくる気もなかったが家業があるために戻ってきた。同時期に進学した同級生は、

ほとんど戻ってきていない。

誤解があるといけないので申し上げますと、先ほど言った学力の話は小学生の話で、中学生では平均より下のようなのである。

委員

あくまでもイメージが大事なので、いい部分を積極的に発信すればいいと思う。良い噂はなかなか伝わらない。

委員

高校の選択肢は著しく少ないと思う。震災前は常磐線が通っていたため、仙台やいわきの高校へ進学することもできた。

委員

私は原町火力発電所に勤めているが、今年の福島県のデスティネーションキャンペーンに火力発電所の見学を入れてもらった。震災後様々なところと交流を行っており、その中で言われるのは話で聞いていた状況と実際に目で見えたものとは全然違うということ。情報発信も大事だが、実際に来てもらえるような取り組みをしていく必要があると思う。

委員長

福島大学でも海外からの視察を受け入れ、被災地を案内することがあるが、特に福島第一原発の周辺に対する関心は高い。来てもらって見てもらうということは本当に大事なことだと思う。

三宅島では帰島する際の判断基準は、自分の目で見てこれなら住めると思えるかどうかを確認するという話を聞いたことがある。避難者に対しては、そういったアプローチの方法もあるのではないかと思う。

企画課長

教育については、昨年度策定した復興総合計画の中でも「全国トップレベルを目指す」という目標を立てている。先日報道された全国学力テストの結果を見ると、福島県は1科目を除いてすべて全国平均を下回ったが、南相馬市単体で見ると、平均値が若干下回るところということで、決して悲観する成績ではなかったとのことである。

農業について委員から発言があったが、高齢者の知識と技術の継承は農業に限らず大切なことであり、元気な方にはまだまだ働いてもらうということも必要だと思う。

情報発信についても発言があったが、今年の4月にオープンしたセドッテかしまでは、4カ月で来場者数が50万人を突破するなど、当初の想定を上回る方の来場をいただいている。それだけの来場者をいかにして市内への誘導を図るかが今後の課題である。

若者に南相馬市へ来てもらうということでは、今年度復興大学という取り組みを開始した。連携協定を締結している福島大学や桜の聖母短期大学、東京大学や新潟大学等の学生に市内で活動してもらうためのオフィスを開設した。

放射線対策としては県の放射能の研究機関を誘致するとともに、イノベーションコースト構想におけるロボット研究拠点に名乗りを上げている。福島第一原発への北の玄関口として、誘致の可能性は高いものと考えている。

委員

南相馬市に来てもらう、見てもらうことは大事だと思うが、人を知ってもらうということが一番大事だと思う。私がここに移住したのも知り合いがいたからこそであり、せっかく来てもらっても素通りされたのでは、それだけで終わってしまう。人を知ってもらうことで例えばニュースで南相馬市の名前が出てきたときに思い出してもらえるなど、距離が縮まる。

知り合ったときに地元の人が地元のよさを言えるということも重要。

企画課主査

先日婚活イベントを手掛けている会社の方と話す機会があったが、その中で、地元で婚活イベントを開催するのではなく、地元から離れたところでイベントを開き、まずは人を知ってもらい、仲良くなってから次に地元呼び込むという事業例について説明を受けた。

委員長

震災から4年が経過し、そろそろ震災遺構として残すもの、残さないものを判断しなければいけない時期に来ていると思う。復旧復興が進むと、震災の爪痕は当然なくなっていく。なくなることで自体が復旧だという考え方もあると思うが、人を呼び込むための一つのツールとして市だけでなく、住民も含めて考えていく必要があると思う。

この有識者会議も今回で3回目ということで、当初5回を予定していたことから折り返しを迎えたこととなる。当初の予定では総合戦略に我々の考えを反映させるということだったが、様々な貴重な意見をいただいている中で、提言書のような形でまとめたほうがよいのではないかと考えている。皆さんの意見をいただきながら、最終的にこの会議の成果をどういった形にまとめるべきか、意見をいただきたい。

通常だと提言書という形で冊子にまとめて市長に渡すという形が一般的だと思うが、何か変わった形でもいいと思う。

委員

まず市民がこういう会議をやっていること自体知らないと思う。

委員長

例えば南相馬チャンネルやひばりFMを使って報告するというのもいいかもしれない。

今日は時間もないため、何かしらの形で成果をまとめ上げることについてはご賛同いただけるか。

(異議なし)

委員長

ではその手法については次回までの宿題としたい。

委員

戦略にこういうものを反映してほしいということを提言書としてまとめることは必要だと思うが、提言書をメディアを使って発信するとなると、その情報が一人歩きしてしまうおそれがある。

企画課主査

現在の発信状況をお話しすると、市のホームページで有識者会議の資料と会議録を公表している。

なお、会議録については発言者の名前は伏せているため、引き続き忌憚のない意見をいただきたい。

委員長

それではこの会議の発信方法を含め、次回検討していきたい。

(2) その他

委員

市に対する要望を2点ほど。

セドッテかしまの女子トイレで、除菌スプレーの場所がわかりづらい。わかりやすくなるような表示をしてほしい。

現在鹿島の保健センターで月1回、原町の保健センターで月1回、未就学児の交流の場としてなかよし広場を開催している。開催が常に火曜日で、参加できない人もいることから、開催日を増やすか、曜日を変動制にするなど検討してほしい。

企画課長

関係課へ伝える。

4 その他

(1) 次回開催予定について

事務局

次回については、10月24日(土)の開催を予定している。詳細が決まり次第早めにお知らせすることとしたい。

次回は12月に素案をパブリックコメントにかけることから、その素案について意見をいただくことと、有識者会議の成果を検討いただくことを予定している。

5 閉会